

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006～2009
課題番号：18520360
研究課題名（和文） 『方言文法全国地図』データ解析プログラムによる西日本方言の言語層位学的研究
研究課題名（英文）

研究代表者

高橋 顕志 (TAKAHASHI KENJI)
群馬県立女子大学・文学部・教授
研究者番号：10137317

研究分野：日本語方言学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：言語学・国語学・日本語学・方言学・言語地理学・方言文法・言語層位学

1. 研究計画の概要

国立国語研究所が Web 上に公開している『方言文法全国地図（GAJ）』データの各項目において、任意の必要形式ごとに分布図を作成するプログラム（GAJ-Sugdass）を開発・整備する。

それによって作成される言語地図一枚一枚には、新旧の言語地層が、露頭として姿を現わしていると見る立場から、それらを各露頭の広狭・重なりに注目しながら並べ替えていき、（本研究では）ことに、西日本における言語地層の重なりを解析・推定し、西日本方言層位モデルを構想する。

2. 研究の進捗状況

本研究は、大きく二つのステージからなる。

第一ステージは、「方言文法全国地図データ」を Sugdass に取り込み、必要な分布図を瞬時に作成する地図化プログラムの作成と、その前段階となる各種データのコンバートプログラムの作成である。

研究の第二ステージとして、完成したプログラムを利用して、各項目ごとにさまざまな

分布図を、とくに西日本に注目しながら系統的、総合的に作成し、分布の広狭・重なりなどを確認し、また、等語線の重ね合わせ方式などにより、分布の動きを確認しながら、西日本における方言層位モデルを見いだそうとするのである。

第一ステージに関しては、2008年度前半までに、『方言文法全国地図』第1巻～第6巻の「データコンバートプログラム」「地図化プログラム」をすべて完成させた。

研究の第二ステージとしての分布図作成とその解釈・解析作業については、第2・3・4巻、第1巻の順に作業をおこない、現在、第5・6巻の分布図作成を行いながら、出力された数千枚の分布図を見渡し、それを統括している層位原理の発見につとめようとしている。

今後、さらには出力されてくる諸分布図を見ながら統括原理の改定・修正作業を行い、層位原理を最終的に確認する。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由)

難航が予想された第5集・第6集のコンピュータプログラム作成が予想以上に早く終了し、2008年後半から分布図作成とその解釈・解析作業に専念することができることとなった。しかしながら、全国分布図として出力された分布図から、狭く、西日本のみの層位原理を見出そうとする方法には多少の無理があり、あわせて全日本での層位原理を想定しておくことの必要性を感じ始めている。

4. 今後の研究の推進方策

上記のことから、今後、全日本における層位原理の中での西日本層位原理という位置づけで、これまでの諸資料を検討し直す作業を加えなければならない。そのためには、この国の縄文・弥生以前からの歴史・文化の変化をも見通すために、考古学・文化人類学・歴史学等関連諸学の最新研究成果を参照する必要があると思われる。今後、分布図の出力を継続しながら、広く全日本も視野に入れての層位原理の発見に努めようと考えている。

5. 代表的な研究成果

[雑誌論文](計1件)

高橋顕志、「方言伝播アニメーションの試み」 - 『方言文法全国地図』データを利用して - 、『明治書院』『日本語学』、第26巻11号、pp.198-204、2007、依頼

[図書](計3件)

『日本語方言の層位 - GAJ-Sugdass 2008
- 』、2009、122p
『日本語方言の層位 - GAJ-Sugdass 2007
- 』、2008、237p

『日本語方言の層位 - GAJ-Sugdass 2006

- 』、2007、306p

いずれも、高橋顕志編、群馬県立女子大学
文学部高橋顕志研究室発行(私家版)